

## 第 20 回 コムズフェスティバル 市民企画分科会 実施報告書

グループ名	ウィメンズカウンセリング松山		
開催日時	2月2日14:30～16:30		
テーマ	いま、フェミニズムが新しい！－#Me Too からみえてくる現在と私たちの未来		
形式	講演会		
講師等	岡野八代氏（同志社大学大学院教授）		
参加人数	合計	39名（女性	36名，男性 3名）
実行委員数	合計	7名（女性	7名，男性 名）
<p><b>〈内容〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・#Me Too 以後日本での動きとその意義・フェミニズムにとっての、ケア（家族）の両義性・母と娘の間に尊厳を取り戻す・母への思いー時代を生きる女性への思いへ・フェミニズムはみんなのもの＝「みな、誰かお母さんの子」として生まれた・男性の側の労働に女性を引き入れるのではなく、女性の労働をいかに再分配するかが問題・グローバル経済のなかで生じていること・男女平等の国々で生じていること・Doula を公的概念に、という提案・声を出してみよう：困ったこと、嫌なことを言ってみる、ただ、自分でも困っているかどうか分からないことがある・婚姻状況による労働力、労働時間、子育て世代の就労時間、働く女性の実情等国際比較・社会保障の中で、子育て支援・教育にはほとんどお金を使わない社会</li> </ul> <p><b>〈参加者の声〉</b> アンケートの感想より抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今私は小さな子どもを育てている最中で、まさにうなずける場面が多々あり、とても聞きやすかったです。私は、私の悩みはなんとなく話せるけれど、それがどうフェミニズムや社会の問題とつながるのかピンときていませんでした。それが今日の講演を聞いてつながって、モヤモヤが晴れたような感じが少ししました。もう一度考えて本も読んでみたいです。</li> <li>・自分の声を発することの難しさ、でも大切であることを実感しました。女性だからと、おくすることなく声を出すことで小さな波をおこすことができるのですね。そして、小さな波も、たくさん（の声）あつまれば大きくなるのですね。</li> <li>・「日本では子どもを生むと、経済的弱者になってしまう」このことはたいへんショックなことでした。日本の社会の仕組みが変わらないと、このようなことは変わらないのだとつくづく思った。そのためにも政治がたいへん関わっていて重要であることも良くわかりました。</li> </ul> <p><b>〈まとめ〉</b></p> <p>フェミニズムを広め、またその理解を深めるために企画したが、目的はかなり達成できたと思う。講演は簡単な内容ではなかったが、講師の話はたいへんわかりやすく、「腑に落ちる」お話で一貫していた。参加者は熱心に聴いており、講演後の質疑応答も充実したものとなった。</p>			